

令和5年12月19日

東京都千代田区四番町5番地3

科学技術振興機構（JST）

Tel : 03-5214-8404（広報課）

URL <https://www.jst.go.jp>

経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）における 新規採択課題の決定について （令和4年度第3回募集、令和5年度第1回募集）

JST（理事長 橋本 和仁）は、内閣府および文部科学省が定めた研究開発構想を受け、経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）における新規採択研究開発課題を決定しました。

K Programでは、中長期的に日本が国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で不可欠な要素となる先端的な重要技術を育成するため、国が定めた研究開発ビジョンや研究開発構想に基づき、研究開発を実施します。JSTでは研究開発構想（プロジェクト型）に関してはプログラム・ディレクター（PD）が、研究開発構想（個別研究型）に関してはプログラム・オフィサー（PO）が、研究開発ビジョンの達成と研究開発構想の実現に向けて、研究開発課題の実施を指揮・監督します。実施に当たっては、研究開発課題提案の募集を行い、PDもしくはPOが外部有識者らの協力を得ながら選考を行います。なお、公正で透明な評価を行う観点から、JSTの規定などに基づき、利益相反マネジメントを行います。

今回、以下の研究開発構想について、研究開発課題を採択しました（別紙1）。

- （1）「量子技術等の最先端技術を用いた海中（非GPS環境）における高精度航法技術・量子技術等の最先端技術を用いた海中における革新的センシング技術」
公募枠：①海中における高精度航法技術
- （2）「災害・緊急時等に活用可能な小型無人機を含めた運航安全管理技術」
公募枠：②小型無人機技術【追加公募】

今後、研究開発ビジョンの達成と研究開発構想の実現に向けて、より効果的・効率的な研究開発となるよう、採択された研究開発課題の研究代表者は、PDもしくはPOの指揮の下で研究開発の詳細計画の作り込み（提案した研究開発計画の見直しおよび具体化など）を行った上で研究開発を開始します。

詳細はK Programのウェブサイトをご覧ください。

URL : <https://www.jst.go.jp/k-program/>

<添付資料>

別紙1：採択研究開発課題一覧

別紙2：評価者一覧

参考1：経済安全重要技術育成プログラムの事前評価における選考の観点

参考2：経済安全保障重要技術育成プログラムにおける研究開発課題募集の概要

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 先端重要技術育成推進部

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 九段センタービル

鈴木 至（スズキ イタル）

E-mail : k-program_koubo@jst.go.jp ※電子メールでお問い合わせください。

採択研究開発課題一覧

研究開発構想（個別研究型）「量子技術等の最先端技術を用いた海中（非GPS環境）における高精度航法技術・量子技術等の最先端技術を用いた海中における革新的センシング技術」
 公募枠：①海中における高精度航法技術

研究開発課題名	研究代表者（所属・役職）	研究開発概要
非GNSS高精度航法装置の研究開発 （仮称）	上妻 幹旺 （東京工業大学 科学技術創成研究院 教授）	慣性航法の要素技術となるジャイロスコープ、加速度計、重力勾配計について、自らの先行研究成果を生かした開発を進めます。慣性航法では加速度、角速度といった「ベクトル」の超精密測定が求められますが、この課題に対しHardware In the Loop Simulation (HILS) に代表されるModel Based Systems Engineering (MBSE) を駆使した研究を進めます。

研究開発構想（プロジェクト型）「災害・緊急時等に活用可能な小型無人機を含めた運航安全管理技術」
 公募枠：②小型無人機技術【追加公募】

研究開発課題名	研究代表者（所属・役職）	研究開発概要
災害・緊急時等に活用可能な小型VTOL無人機技術の研究開発 （仮称）	小林 啓二 （宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 航空利用拡大イノベーションハブ ハブマネージャ）	高速・長時間飛行性能の発揮にポテンシャルを持つ電動多発タンデム・テイルト翼VTOL無人機を開発して飛行実証します。また、機体認証安全基準に適合するためのVTOL設計・証明法を構築し、成果を産業界と共有することにより、認証取得による国際競争力向上に貢献します。さらに、有人機連携を可能にする自動化技術にも取り組みます。

※研究開発課題名は調整により変更になることがあります。

評価者一覧

研究開発構想（個別研究型）「量子技術等の最先端技術を用いた海中（非GPS環境）における高精度航法技術・量子技術等の最先端技術を用いた海中における革新的センシング技術」
 公募枠：①海中における高精度航法技術

※本研究開発構想のもう1つの公募枠「②海中における革新的センシング技術」の二次募集を実施中のため、本研究開発構想の評価者は、公募枠②の採択課題決定と合わせて公表します。

研究開発構想（プロジェクト型）「災害・緊急時等に活用可能な小型無人機を含めた運航安全管理技術」

	氏名	所属・役職
プログラム・ディレクター（PD）	大林 茂	東北大学 流体科学研究所 教授
分科会委員	大隅 久	中央大学 理工学部 教授
	大槻 知明	慶應義塾大学 理工学部 教授
	神村 明哉	産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 研究チーム長
	佐藤 彰	静岡理工科大学 理工学部 教授
	土屋 武司	東京大学 大学院工学系研究科 教授
	福島 幸子	電子航法研究所 航空交通管理領域 領域長
	山下 史洋	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所 主席研究員
	米田 洋	帝京大学 理工学部 教授

（五十音順、敬称略）

経済安全重要技術育成プログラムの事前評価における選考の観点

1. 研究開発ビジョンの達成および研究開発構想の実現に向けた達成目標の妥当性並びに多様な分野における研究成果活用の実現可能性

 2. 研究開発課題の達成目標に向けた実施内容の妥当性
 - ・ 研究開発項目・内容
 - ・ 実施体制
 - ・ 研究資金計画
 - ・ 安全管理措置の計画
- ※ 安全管理措置とは、研究開発に関する情報を適切に管理するための措置や、機微な情報に対する守秘義務履行のための必要な措置を言います。

経済安全保障重要技術育成プログラムにおける 研究開発課題募集の概要

1. 事業の趣旨

K Programでは、中長期的に日本が国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で不可欠な要素となる先端的な重要技術について、経済安全保障推進会議および統合イノベーション戦略推進会議が定めた研究開発ビジョンの実現に向け、内閣府および文部科学省が定めた研究開発構想に基づき、研究開発を実施します。

また、K Programは経済安全保障推進法における特定重要技術の研究開発の促進およびその成果の適切な活用を目的とする事業に位置付けられています。

2. 事業の特徴

研究開発構想には、重要技術の獲得を目指す比較的大規模な研究開発プロジェクトの研究開発構想（プロジェクト型）と、重要技術となり得る要素技術や研究開発プロジェクトの高度化に資する要素技術などの獲得を目指す個別研究の研究開発構想（個別研究型）があります。

研究開発構想（プロジェクト型）に関してはプログラム・ディレクター（PD）が、研究開発構想（個別研究型）に関してはプログラム・オフィサー（PO）が、研究開発ビジョンの達成および研究開発構想の実現に向けて、研究開発課題の実施を指揮・監督します。

また、関係府省との情報共有や意見交換の場などとして協議会が設置される予定です。

3. 募集期間

令和4年度第3回：令和5年3月30日（木）～令和5年6月8日（木）正午

令和5年度第1回：令和5年6月30日（金）～令和5年9月7日（木）正午

4. JSTが研究開発課題を募集する研究開発構想

- (1) 「量子技術等の最先端技術を用いた海中（非GPS環境）における高精度航法技術・量子技術等の最先端技術を用いた海中における革新的センシング技術」

PO：中村 祐一（日本電気株式会社 研究・開発ユニット 主席技術主幹）

- (2) 「災害・緊急時等に活用可能な小型無人機を含めた運航安全管理技術」

PD：大林 茂（東北大学 流体科学研究所 教授）

以上